

会 議 録

会議の名称	那珂川市子育て支援推進協議会		
開催日時	平成 31 年 1 月 31 日(木) 14:30 ~ 16:30	開催場所	市役所 2 階 第 2 会議室
出席者	<p>1. 委員 秋峯委員、飯田委員、江島委員、加峰委員、大谷委員、平島委員、萬委員 Winters 委員(欠席者)唐崎委員、足立委員</p> <p>2. 市(事務局) 入江子育て支援課長、長田子育て支援課長補佐兼子育て支援担当係長、 渡邊こども応援課こども応援担当係長(子育て支援担当職員)永野</p> <p>3. その他 株式会社サーベイリサーチセンター 水町研究員</p>		
配布資料	資料 2-1: 那珂川市認可保育所及び認定こども園入所状況、資料 3-1: 那珂川市次世代育成支援地域行動計画等ニーズ調査概要、資料 3-2: 那珂川市次世代育成支援地域行動計画等ニーズ調査項目案、資料 3-3: 那珂川市就学前調査票(案)、資料 3-4: 那珂川市就学児童調査票(案)		

議題及び審議の内容

1. 会長あいさつ

2. 那珂川市認可保育所及び認定こども園入所状況について

(説明：事務局)

- ・平成 31 年 1 月の入所児童数と平成 31 年 4 月からの申込状況について説明

【質疑・意見等】

(委員)青葉保育園分園とパディスポーツ幼稚園が定員に達していないが、入所がほとんど難しいとなっているのは、保育士不足等で定員まで入所させることができないのか他に理由があるのか。

(事務局)現状、保育施設を運営するうえで、保育士の確保が一番の課題。青葉保育園分園については、0.1 歳児を受け入れているが、0.1 歳児を保育するとなると、保育士 1 人に対する園児の数が少なくなる。そうすると、4.5 歳児を預かるよりも多くの保育士が必要となるため、保育士確保が困難な状況となる。建物としては 30 人の定員分を確保しているが、安全な保育をするためには定員まで入所できる状況ではない。パディスポーツ幼稚園についても同様。

(委員)青葉保育園分園はワンルームで運営している。施設としては 30 人預かることができるが、30 人受け入れてしまうと、保育士がそれだけ多くなり、保育士で一杯になる。そうすると、一人一人を大切にするという園の理念からかけ離れてしまう。また、部屋の中には保育に必要な物を多く置いているので、平米数としては 30 人受け入れられるとしても入所を受け入れられない状況がある。多くの園児を受け入れずれば良いという考えではなく、良い保育をしたいという気持ちがあるため、無理に受け入れをしていない。

(委員)定員を保育施設の面積で算出しているのであれば、定員の考え方を見直さなければならないのではないか。

(事務局)定員については、行政側が決めている訳ではなく、園のほうで決めているため、行政側で定員を変更することはできない。また、現状受け入れができないという理由のみで定員を下げること

は、待機児童が発生している中では難しい。

(委員)青葉保育園の場合は、良い保育をするため分園で受け入れできない分、本園で定員以上に受け入れしているので、施設全体としては定員以上の園児を受け入れをしている認識がある。

(委員)状況によっては入所できるというのは、先程の保育士が確保できれば入所できるということか。

(事務局)入所が難しいほどではないが、園との調整がつけば入所できるというもの。入所ができる場合は○としているが、必ず入れるというものではない場合は、あいまいな表現になるが状況によってはという表現としている。

(委員)定員は施設の面積基準で算出しているということだが、受け入れが 100%を超えているのは問題ないのか。

(事務局)受け入れについては弾力的な対応ができることとなっている。

(委員)入所状況表については一般に公開しているのか。

(事務局)配布はしていないが、窓口に来庁された際は入所状況表を見せながら説明している。

(委員)園によって、受け入れ率が違うので、受け入れ率の低い園は、もっと受け入れできるのではないかと保護者から質問されないのか。

(事務局)各園の受け入れについては、保育士の確保状況によるので、園によってばらつきがあることを説明している。当然、全ての園で定員 100%まで受け入れる体制はある。それ以上受け入れを行うのかは、園の運営次第。

3. 那珂川市次世代育成支援地域行動計画に伴うニーズ調査について

(説明：事務局)

・平成 31 年 2 月～3 月に行うニーズ調査の概要とニーズ調査案を説明

【質疑・意見等】

(委員)就学前の調査票の問 36 の虐待に関する設問で、児童虐待に関する相談・連絡先について市役所・福岡児童相談所・那珂川交番の連絡先を記載しているのは分かりやすいが、数年前から虐待通報の 189 が出来たので、こちらを載せたらどうか。実際、那珂川交番に電話しても出ない場合がある。勇気を持って虐待通報した人が繋がらなかつたら諦める可能性がある。189 であれば 24 時間繋がるので、追加で載せるか、189 のみ載せるかしたらどうか。

(事務局)どちらの方法で記載するかは担当課と協議したうえで、次回回答する。

(委員)同じ設問で、「子どもへの虐待」と思われることを見聞きしたことはありますかとの問いがあるが、子どもへの虐待の定義があいまいではないか。

(事務局)子どもへの虐待のとらえ方は人それぞれで違うのではないかとすることは確かにある。子どもへの虐待とはこういったものであるという定義を記載した形に変更したところで設問を変えていく。

(委員)子どもへの虐待のところが、鉤括弧がついていることから、子どもへの虐待とは何だろかと思われるかもしれないが、鉤括弧が無ければ子どもへの虐待と思われるという設問は受け手の判断に委ねることが出来るのではないか。

(委員)思われるという設問であるので、未然に防ぐという意味では鉤括弧が無い方が回答しやすいのではないか。

(事務局)鉤括弧を付けない形の設問に変えて、判断に関しては詳細を書かずにアンケートを記入する方の判断に任せるという方法で修正する。

(委員)児童虐待に関する相談・連絡先は、窓口を広げるためにも相談先は多くした方が良いのではないか。たとえば、ボランティアの団体の方でそういう相談を受けている方にも連絡できるようにすれば良いのではないか。

(事務局)相談先が多くあるというのはその通りだが、相談先を広げると担当課と相談先との連

携が必要となる。よって、連携が取りやすい、また、住民からの情報を集約しやすい形を取りたいと考えるが、次回担当課と確認して回答する。

(委員) 問 38 の子育てに関するご意見・ご要望の欄に悩みや困ったこと等を自由に書けるようにしたらどうか。

(委員) あくまでも、無作為・無記名のアンケートなので、悩みや困ったことを記入してもフォローすることが出来ないのではないかと。また、あくまで統計を取るアンケートであるため、個別に悩みを解決できるようなものではないかと。

(事務局) 今回のアンケート調査は、計画を策定するにあたって必要な項目についての調査が前提としてある。勿論、自由意見欄に悩みや困ったこと等記載することは可能である。事務局の提案としては、問 32 の子育てに関する悩みに関する設問があるので、こちらの設問の回答項目を増やすことで対応したい。その他の欄もあるので自由意見についてはこちらに記載してもらうことで対応する。

(委員) 子育ての悩みを意思表示ができる設問があれば良いと思う。

(事務局) 重複するが、問 32 の回答項目を増やすことは可能。アンケートの集計するうえで、この悩みが何%あったといった取りまとめをさせていただく。そのなかで、保護者の悩みがどこにあるのかをリサーチしていく。しかしながら、自由意見で悩みが出てきたとしても、今回のアンケートで個別に解決していくことは難しい。

(委員) 問 32 にその他の欄があるので、書きたいことがあればその他に記入することで良いと思う。

(委員) その他のところを大きくすることで対応したらどうか。

(事務局) その他の欄については、スペースを取ることで対応したい。

(委員) 問 18 のサービスの利用について、のびのびポータルサイトの利用についても追加したらどうか。

(事務局) 追加した形で最終版を提示する。

(委員) 問 33 の選択欄に民生委員・児童委員の他に主任児童員を追加してほしい。子ども達を見ているのは主に主任児童員がみている。

(事務局) 主任児童員と民生委員と児童委員は別ものなのか。

(委員) 兼ねているが、主に子どもを見ているのは主任児童委員。

(事務局) 担当課に確認したうえで検討する。

(委員) 回収率は 50%前後を想定しているとのことだが、回収率を上げる方法がないのか。

(事務局) 回収率は 5 年前に行ったアンケート調査を参考としている。前回は、設問が多かったことや、内容が分かりづらいこともあり回収率が約 50%だった。今回に関しては、回収率を上げる為に、事前に業者と打ち合わせを行い、分かりやすい設問、答えやすい内容に重点を置き、尚且つ、必要な事項を記載していく方法を取る。事務局としては、答えやすい内容にすることで回答率を上げる方針。

(委員) 用語の定義のなかで、名称では放課後子ども教室（土曜日の学校開放）と記載しているが、内容では新土曜日の学校開放となっているがどちらが正しいのか。

(事務局) 担当課に確認のうえ修正する。

(委員) 新土曜日の学校開放と土曜日の学校開放は別物なのか。

(事務局) 現状、土曜日の学校開放と、新土曜日の学校開放の 2 パターンの事業を行っている。確かに分かりづらいので整理して回答する。

(委員) 南畑・安徳・片縄小学校で行っているのが新土曜日の学校開放なのか。

(事務局) そのとおり。放課後子ども教室の通称として新土曜日の学校開放という名前を付けて

いる。

(委員) 保育士不足ということだが、保育士資格を持っている保護者の方が、再就職をしないもしくは職場復帰ができない理由を調査するような設問を作ってはどうか。

(事務局) 潜在保育士や幼稚園教諭の方の再就職に繋げるようなアプローチの方法については、別途検討中。再就職や職場復帰が難しい状況等については別の調査を行い、その調査を基に行政で可能な限り解消できる方法を探っていく。

(委員) 福岡県では、潜在保育士を掘り起こすアンケート調査を行っているが、規模が大きく、実績に結び付かない。各市町村単位で、再就職に繋げるような施策があれば、自分が住んでいる市町村なので成果が上げやすいかもしれない。

(事務局) 子育て支援課としては、市内の保育所・幼稚園等と再就職を希望している方とのマッチングを行政が主体となって行っていきたいと考える。

4. 質疑応答

・他、意見なし。

7. その他

(1) 次回以降の開催日程について

(説明:事務局)

- ・第3回会議は平成31年2月14日(木)10:00～
- ・場所は、市役所2階第1会議室で行う。

(2) 議事録の公開について

(説明:事務局)

- ・会議録については、事務局が作成し会長に確認していただいたうえで公開する予定。
- ⇒公開について、異議なく了承